(別記)

令和4年度豊橋市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊橋市は、概ね平坦な地形と温暖な気候を生かした農業生産が盛んに行われており、施設園芸（野菜・花き）や露地野菜は全国的に有数の産地となっている。一方で水稲については、生産農家の経営規模が小さく、農業産出額も本市全体の5%にとどまっており、全体として、農家の高齢化や後継者不足の影響が大きく、不作地の拡大が進んでいる。そのためこの問題を解決すべく、関係機関と連携して地域の中心となる経営体へ農地の集積を図り、経営規模の拡大・作業の効率化に取り組んでいく必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市における転換作物への取組について、麦類は北部地域を中心に生産を行っていたが、市内全域への生産拡大を推進しつつ、生産性・品質向上への取組を通じて収量増加を図っていく。また飼料用米やWCS用稲については堆肥散布など耕畜連携を通じて収量増加と所得向上に努めていく。

高収益作物については、もともと野菜生産が盛んな南部地域を中心に、野菜への作付転換を進めていく。

さらに、関係機関と協力して低コスト生産技術の普及促進や農地を集約化（団地化）を推進していくことで、地域全体の作付面積の拡大を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市の水田は、畑地面積のおよそ半分ほどであるが、基盤整備された水田も多く、担い手（オペレーター）が利用している水田の多くが整備済みである。これらのほ場では、麦類や飼料用米、WCS用稲などが多く作付されている。麦類については、導入されて以降、輪作までにはいたっていないものの作付拡大が進んでいる。飼料用米については、水稲からの転換作物として最も拡大が期待されているため、作付面積も拡大傾向にある。

しかしながら、南部地域や北部地域の山間部では、整備されておらず水田としての活用が難しいほ場も多い。そのため、活用が困難で活用が不十分となっている地域を中心に作付体系の見直しを図る必要がある。

また本市においてはブロックローテーションを導入していないため、関係機関と調整を行い、ブロックローテーションの導入について検討していく。

さらに畑作物のみを生産し続けている水田がないか、現地確認等により点検し、点検結果において今後水稲作に活用される見込みがなければ、畑地化支援等を活用して畑地化の推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主力品種は「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」などである。

主食用米の需要が減少する中、需要動向や集荷業者等の意向を勘案しながら、消費者が求める、良質で安心・安全な米作りを進めていく。

(2) 備蓄米

国の方針に即した集荷業者等の割り当てに応じ、継続して取組んでいく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の作付けを維持拡大していくため、多収品種に比べて取組みが容易な主食用品種による飼料用米の取組みについて支援を継続していく。

また、全国的に比べ本市の飼料用米多収品種の割合は少ないため、引き続き多収品種を導入する取組みを支援していく。

イ 米粉用米

複数年契約など需要に応じた生産を推進しつつ、作付面積を維持していく。

ウ 新市場開拓用米

内外の新市場の開拓を図る米づくりに対し支援していく。

エ WCS用稲

耕畜連携による、実需者の要望に応じたWCS用稲の生産を支援していく。

オ 加工用米

複数年契約等、需要に応じた生産を推進しつつ作付面積を維持していく。

(4) 麦、大豆、飼料作物

本市ではブロックローテーションが成立していないため、麦・大豆の連作となり、除草対策に苦慮するほ場が多い。このため、除草対策への支援を行い、併せて収量増加と品質向上への取組みも支援していく。

飼料作物については、WCS用稲と同様に稲作農家と酪農家で構成する生産利用組合を中心に栽培を進めていくことで栽培技術の構築に努め、今後の取組拡大を図っていく。

(5) そば、なたね

取組なし。

(6) 地力増進作物

取組なし。

(7) 高収益作物

水田を活用した野菜づくりについて、米の需給調整に資する取組みとして今後も作付面積の拡大を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1,570		1,499		1,450	
備蓄米	3		3		5	
飼料用米	181		210		250	
米粉用米	1		1		1	
新市場開拓用米	5		6		7	
WCS用稲	41		50		70	
加工用米	2		1		1	
麦	46		60		70	
大豆	9	1	7	2	7	
飼料作物	0		0		0	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	6		6		6	
・野菜	6		6		6	
・花き・花木	0		0		0	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		0		0	
・〇〇	0		0		0	
畑地化	0		0		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）		目標値	
1	小麦 （基幹作）	小麦の品質向上	取組面積（a）	（3年度）	4,219	（5年度）	7,000
2	大豆 （基幹作・二毛作）	大豆の収量増加	取組面積（a） 収量（kg/10a）	（3年度）	892 26	（5年度）	700 142
3	飼料用米多収品種 （基幹作）	飼料用米多収品種の支援	取組面積（a）	（3年度）	4,205	（5年度）	6,000
4	飼料用米主食品種 （基幹作）	飼料用米主食品種の生産性向上	取組面積（a）	（3年度）	13,929	（5年度）	19,000
5	WCS用稲 （基幹作）	WCS用稲の生産性・品質向上	取組面積（a）	（3年度）	4,078	（5年度）	7,000
6	高収益作物（野菜） （基幹作）	高収益作物（野菜）への支援	取組面積（a）	（3年度）	575	（5年度）	600
7	WCS用稲・飼料用米 （基幹作）	耕畜連携（資源循環・わら利用）	取組面積（a） 飼料用米 WCS用稲 合計	（3年度） （3年度）	1,356 4,078 5,434	（5年度） （5年度）	1,600 5,000 6,600

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：愛知県

協議会名：豊橋市地域農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	小麦の品質向上	1	5,500	小麦(基幹作)	難防除雑草対策、湿害対策等の実施
2	大豆の収量増加	1	3,000	大豆(基幹作)	難防除雑草対策、湿害対策等の実施
2	大豆の収量増加(二毛作)	2	3,000	大豆(二毛作)	難防除雑草対策、湿害対策等の実施
3	飼料用米多収品種の支援	1	4,000	飼料用米(多収品種、基幹作)	新規需要米取組計画の認定を受けること等
4	飼料用米主食用品種の生産性向上	1	2,000	飼料用米(主食用品種、基幹作)	疎植栽培、密苗栽培等の実施
5	WCS用稲の生産性・品質向上	1	4,500	WCS用稲(別紙のとおり、基幹作)	疎植栽培、密苗栽培等の実施
6	高収益作物(野菜)への支援	1	3,500	高収益作物(別紙のとおり、基幹作)	通常の肥培管理を行っていること等
7	耕畜連携(資源循環・わら利用)	3	4,500	飼料用米・WCS用稲(基幹作)	利用供給協定の締結等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。